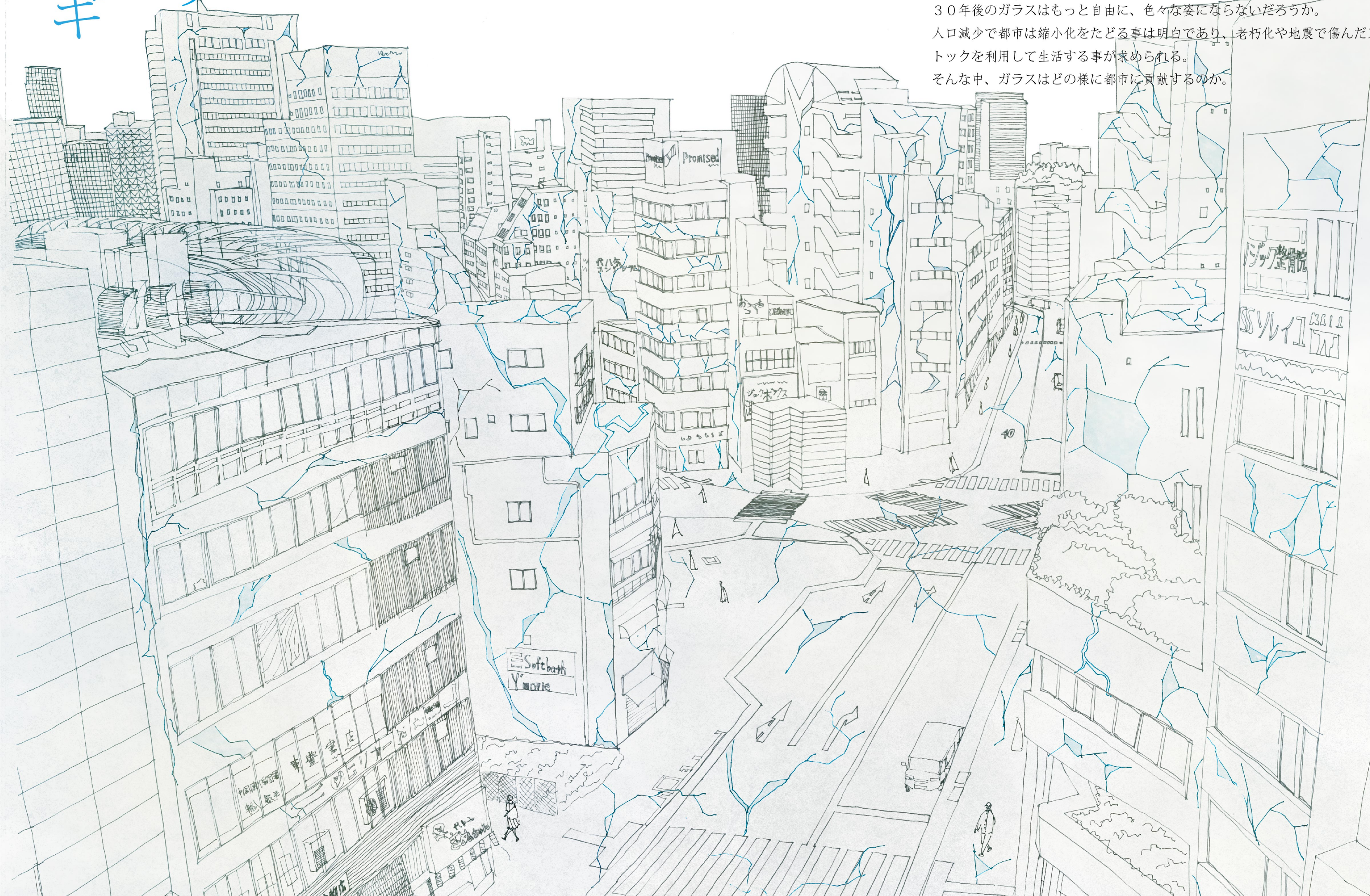
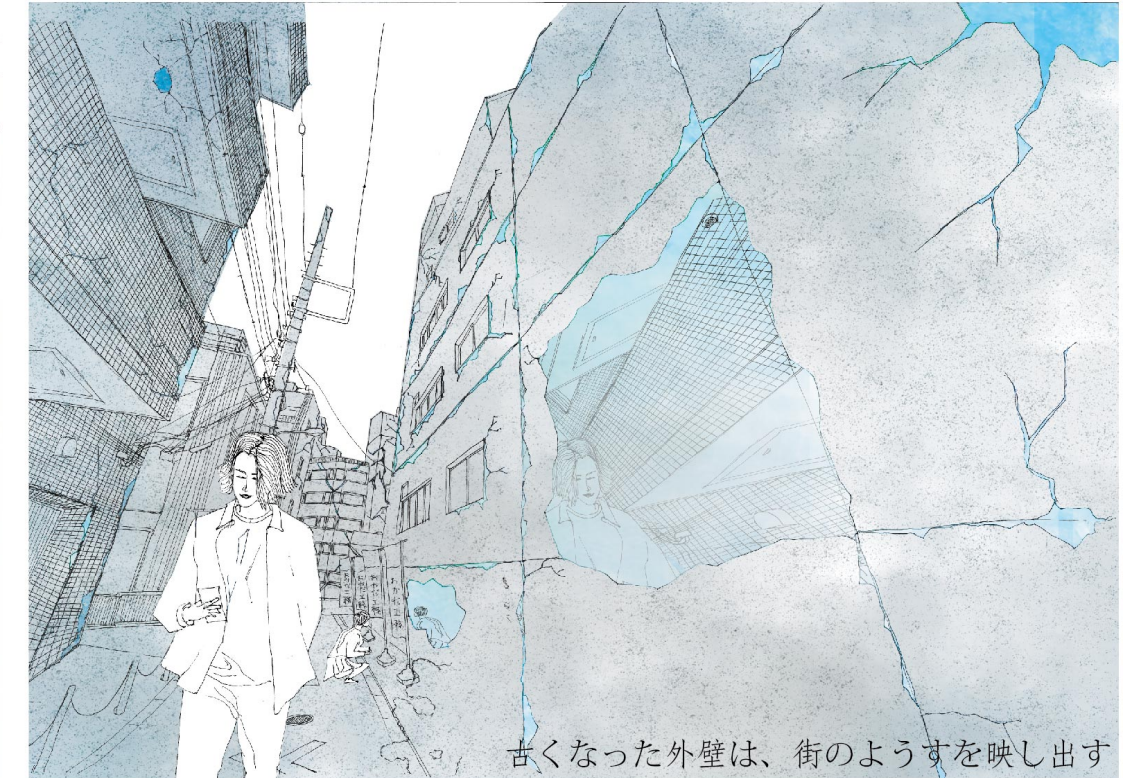


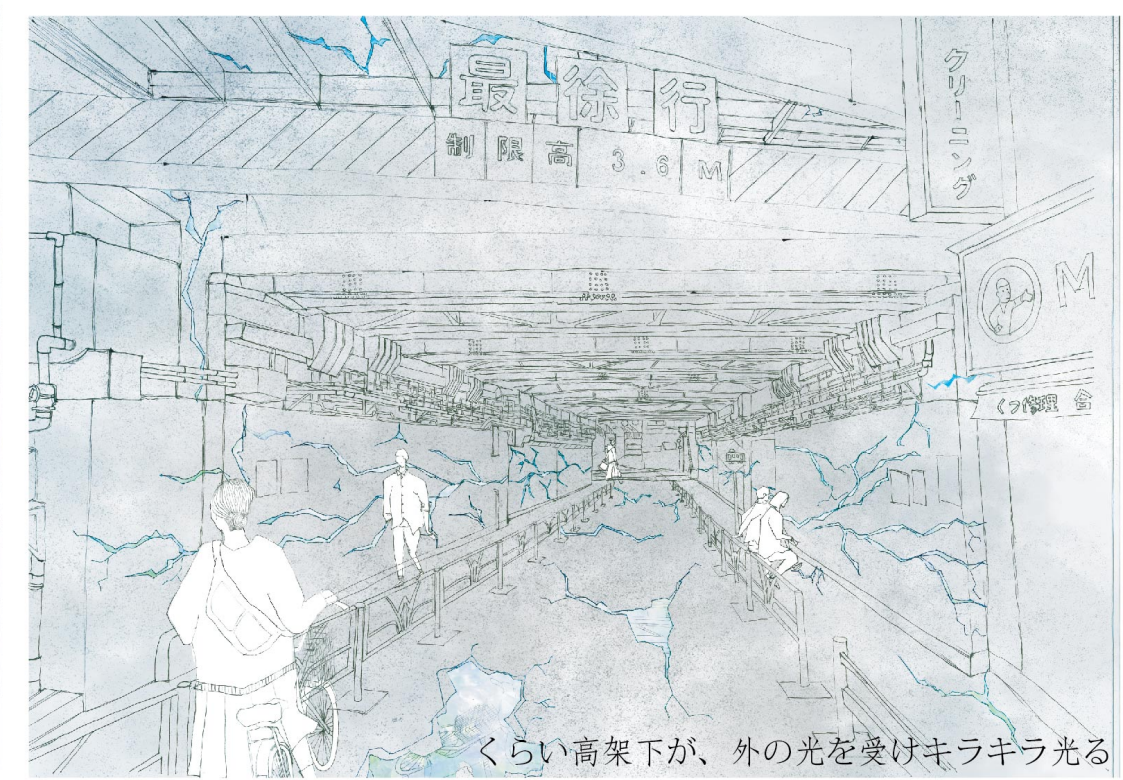
ツギガラス



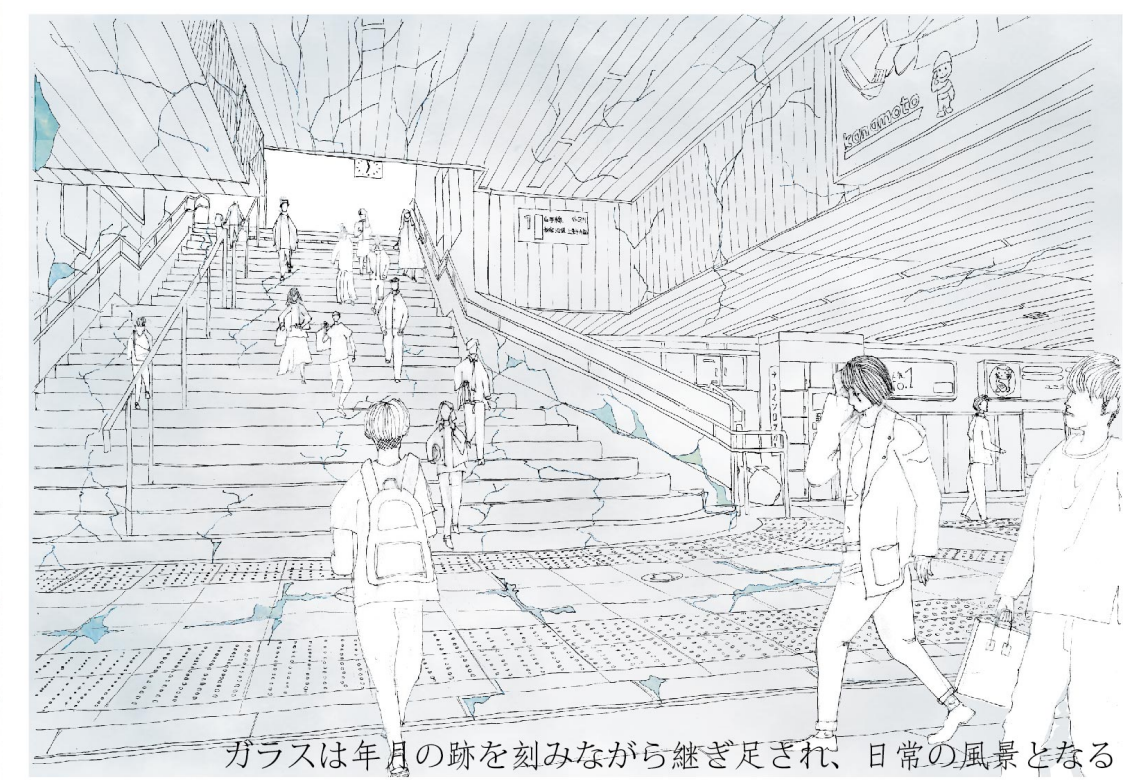
■ 30年後のガラス空間
 現代のガラスは、透明性・開放感等を得る為にもっと選ばれる建材である。都市は既製品のガラスで溢れており、建築物も空間も単調になりつつある。30年後のガラスはもっと自由に、色々な姿にならないだろうか。人口減少で都市は縮小化をたどる事は明白であり、老朽化や地震で傷んだストックを利用して生活する事が求められる。そんな中、ガラスはどのように都市に貢献するのか。



古くなった外壁は、街のようすを映し出す



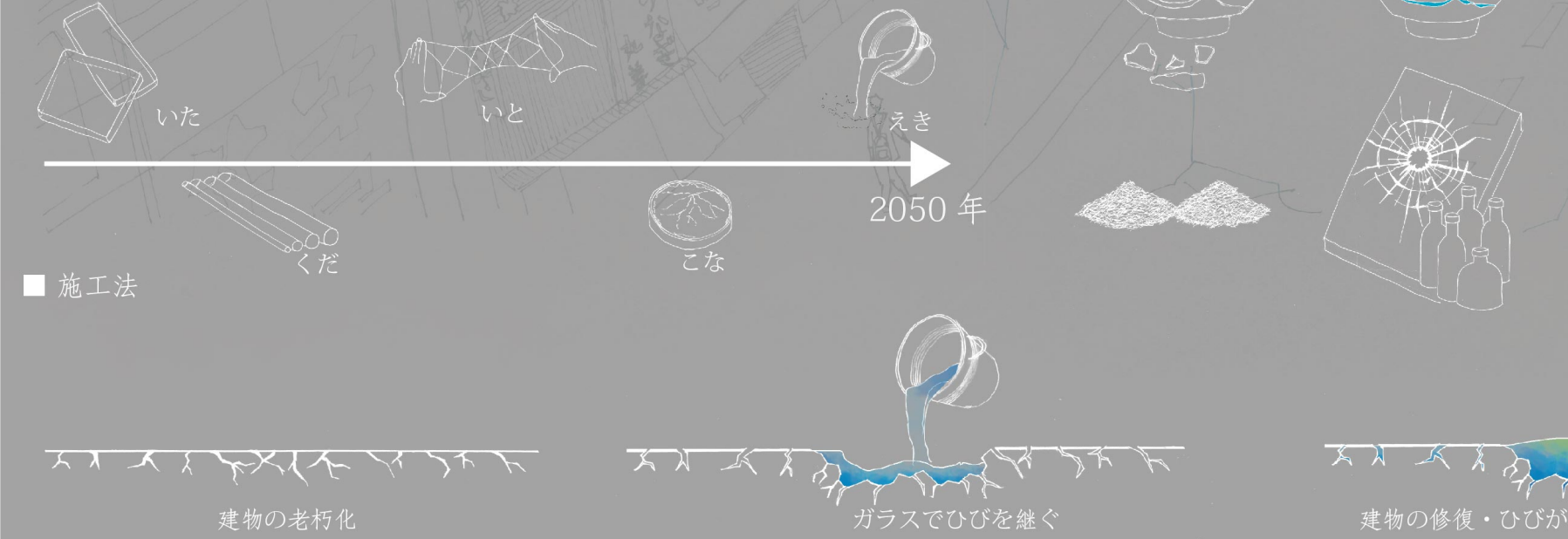
くらい高架下が、外の光を受けキラキラ光る



ガラスは年月の跡を刻みながら継ぎ足され、日常の風景となる

■ ガラスの進化

ガラスは様々な姿を変え、都市に貢献してきた。30年後は「液体ガラス」として、都市に浸透していく。



■ 施工法

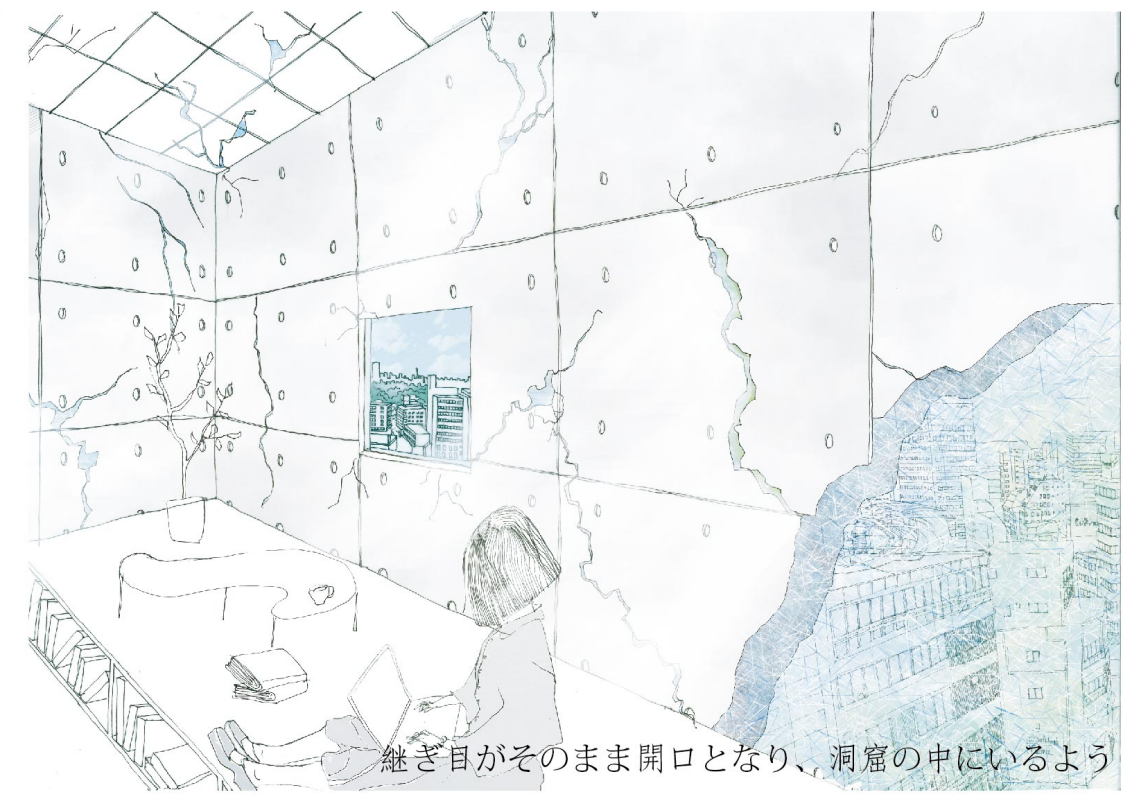
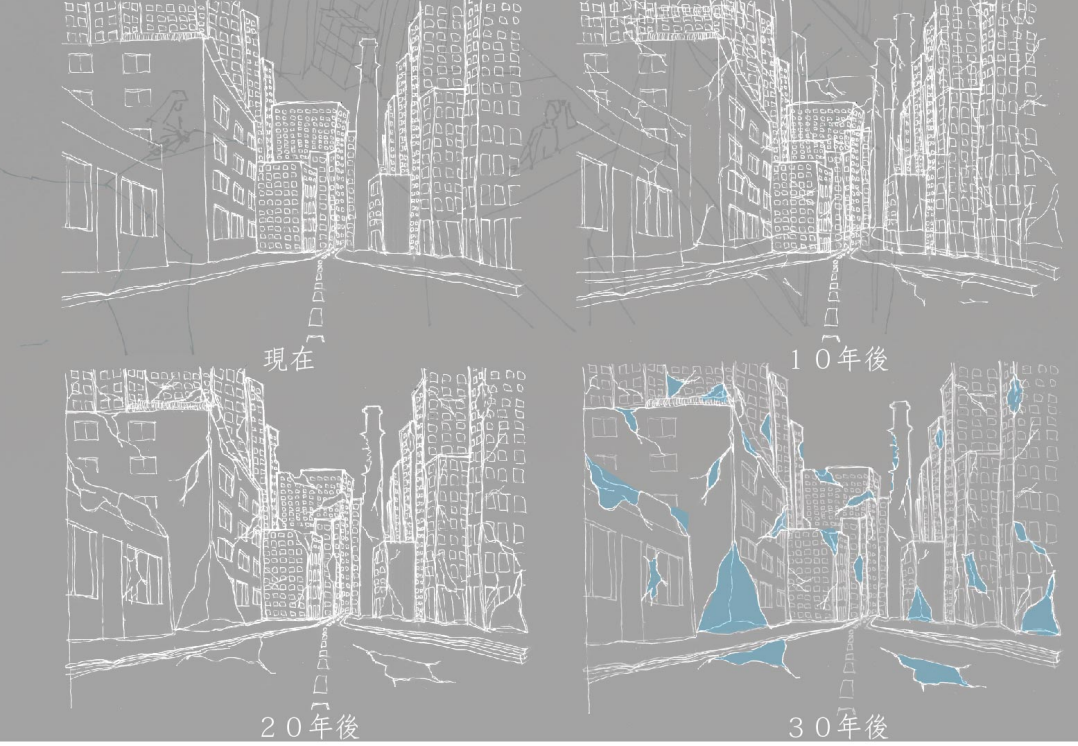
■ 金継ぎ

金継ぎとは、割れや欠け、ヒビなどの陶磁器の破損部分を漆で接着し、金等の金属粉で装飾して仕上げる修復方法。

■ 素材活用

コンクリートのひび割れ抑制に用いられるGRCファイバ（ガラス繊維補強コンクリート）は耐腐食性を有し、軽量である。これに都市の廃ガラスを混ぜ合わせ、液状の補修材として都市をガラスで継ぐ。

■ 経年変化



継ぎ目がそのまま開口となり、洞窟の中にいるよう